

《女性研究者等研究支援成果報告 概要・要旨》

＜課題名＞

アメリカ文学・文化におけるセンチメンタリティ

＜代表者所属・職名・氏名＞

国際基幹教育院准教授 ハーン小路恭子

＜研究成果要旨＞

本研究の課題は、大きく分けてふたつあった。ひとつはアメリカ文学・文化研究における鍵概念のひとつであるセンチメンタリティを、それが根差していた 19 世紀の文脈を超えて、20 世紀、ひいては 21 世紀のアメリカという国家の社会的・文化的危機に対するアフェクティブなレスポンスとして再定義することである。それにより奴隷制などの 19 世紀的状况に限定することなく、20 世紀以降の文学作品や文化的言説においてセンチメンタリティの表現がどのように繰り返し現れてくるかを考察することが可能になった。もうひとつは、個々の作家や文化的言説の担い手たちが、前述したようなセンチメンタル・ナラティブに潜む問題性や矛盾点をいかに明確化し、センチメンタリティを批判的に継承してきたかを探求することにある。それを通じてセンチメンタリティを、19 世紀のいわゆる感傷小説のコンテクストを超え、20 世紀、ひいては 21 世紀の現在に至るまで変奏され続けるアメリカ文学の語りの基底を為す特質としてとらえ直すことができた。

研究支援費用取得後、アフェクトセオリー関連および個々の研究プロジェクトに必要な資料収集を行ってきた。収集した資料にあたる過程で、センチメンタリティという枠組みから派生して、社会的・政治的危機にある社会において、より広い意味での感情、情動が文化的テクストを通じてどう描かれているかという、より大きな研究課題を見出した。新たな研究課題は平成 30 年度科研費若手研究分野に課題名「現代アメリカ文学・文化における危機・情動・身体」として申請し、現在審査結果を待っているところである。

研究課題の主要なプロジェクトとしては、ビヨンセのヴィジュアル・アルバム Lemonade (2016) に関するリサーチを進めた。その研究の成果をまとめ、2018 年 2 月のアメリカ文学会中部支部例会にて、研究発表「"What Happened at the New Wil'ins?"—Beyoncé, Lemonade における暴力、洪水、南部」を行った。研究者との交流や質疑応答で得た有意義なフィードバックをもとに、同じ発表原稿を論文に書き直し、インデックスありの英文ジャーナル LIT (Literature Interpretation Theory) に投稿した (現在審査中)。このプロジェクトに取り組むことを通じてセンチメンタリティという研究テーマと人種、ジェンダー、階級といった社会的差異の関わりがより明確になり、また音楽や映像などヴィジュアルカルチャーの分析により積極的に取り組む必要性も明らかになったため、全体として有意義な研究成果を得ることができたといえる。